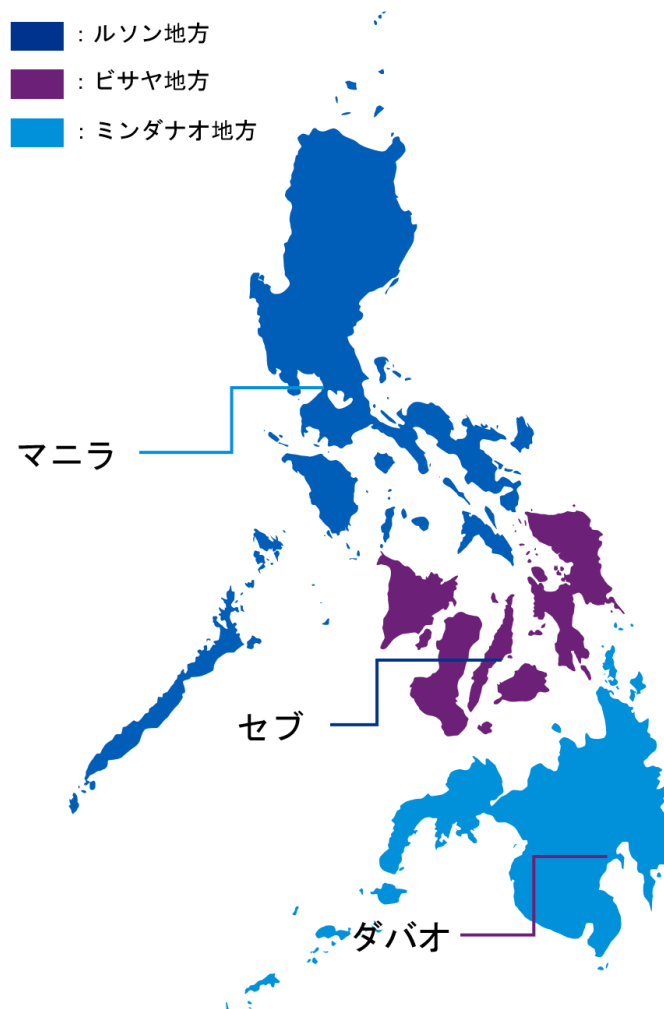


## 第24章 主要な地域の概要

### 1. フィリピンの地域分類

フィリピンの国土面積は約 30 万 km<sup>2</sup> で、日本の約 80% である。7,100 余の島々からなるフィリピン国土は、マニラ首都圏を含むルソン地方、ビサヤ地方（中心都市セブ）、ミンダナオ地方（中心都市ダバオ）という 3 つの地域に大きく分けられている。更に細かく見ると、Region と呼ばれる 15 の行政区、National Capital Region (NCR) 又は Metro Manila と呼ばれるマニラ首都圏、1 つの自治区（ムスリム・ミンダナオ自治区）、1 つの行政地域（コルディリエラ行政地域）という、18 の行政管区に分けられ、これらの行政管区の下には 81 の Province（州）がある。

図表 24-1 フィリピンの 3 地方



図表 24-2 フィリピンの 3 地方、18 地域と 81 の州

地方	地域 (Region)	州 (Province)	地方	地域 (Region)	州 (Province)	
ルソン	NCR	NCR	ビサヤ	VI-西部ビサヤ	ア克蘭	
	CAR-コルディエラ	アヤバオ			カビス	
		カリंगा			イロイロ	
		アブラ			アンティケ	
		マウンテン・プロビンス			ギマラス	
		イフガオ		ネグロス・オキシデンタル		
		ベンゲット		ネグロス・オリエンタル		
	I-イロコス	イロコス・ノルテ		セブ	VII-中部ビサヤ	ボホール
		イロコス・スル		シキホール		
		ラ・ウニオン		ビリラン		
		パンガシナン		北サマル		
	II-カガヤン・バレー	バタネス		東サマル	VIII-東部ビサヤ	西サマル
		カガヤン		レイテ		
		イザベラ		南レイテ		
		キリノ		サンボアンガ・デル・ノルテ		
		スエバ・ビスカヤ	サンボアンガ・デル・スル			
	III-中部ルソン	アウロラ	タルラク	IX-サンボアンガ半島	サンボアンガ・シブガイ	
		スエバエシハ	サンバレス		X-北部ミンダナオ	ミサミス・オリエンタル
		タルラク	バタアン			ミサミス・オキシデンタル
		サンバレス	パンバンガ	カミギン		
		バタアン	ブラカン	ラナオ・デル・ノルテ		
		IV-A カラバルソン	パンバンガ	リサール	XI-ダバオ	ブキドノン
			ブラカン	カビテ		コンボステラ・バレー
	リサール		バタンガス	ダバオ・オリエンタル		
	カビテ		ラグナ	ダバオ・デル・ノルテ		
	バタンガス		ケソン	ダバオ・デル・スル		
	IV-B ミマロバ	ラグナ	マリンドゥケ	XII-ソクサージェン	ダバオ・オキシデンタル	
		ケソン	オリエンタル・ミンドロ		南コタバト	
		マリンドゥケ	オキシデンタル・ミンドロ		北コタバト	
		オリエンタル・ミンドロ	ロンブロン		スルタン・クダラット	
オキシデンタル・ミンドロ		パラワン	サラングニ			
V-ビコール	ロンブロン	カマリネス・ノルテ	XIII-カラガ	アグサン・デル・ノルテ		
	パラワン	カマリネス・スル		アグサン・デル・スル		
	カマリネス・ノルテ	アルバイ		スリガオ・デル・ノルテ		
	カマリネス・スル	ソルソゴン		スリガオ・デル・スル		
	アルバイ	カタンドゥアネス		ディナガット・アイランズ		
	ソルソゴン	マスバテ		バシラン		
ミンダナオ	カタンドゥアネス	ムスリム・ミンダナオ 自治区(ARMM)	ムスリム・ミンダナオ 自治区(ARMM)	ラナオ・デル・スル		
	マスバテ	マギンダナオ		マギンダナオ		
		スールー		スールー		
		タウイタウイ		タウイタウイ		

(出所) PSA (Philippine Statistics Authority) データより作成

## 2. 地域別の経済状況

ルソン地方最大の都市であるマニラ首都圏（National Capital Region）は、フィリピン最大の経済圏であり、2018年の国家全体のGDPに占める割合は37.5%であった。マニラ首都圏に次ぐ経済圏のGDP構成比を見ると、数多くの工業団地が集中するリサール州、カビテ州、バタンガス州、ラグナ州、ケソン州からなるカラバルソン地方が14.8%、クラーク（パンパンガ州）やスービック（サンバレス州）などの主要な経済特区を含む中部ルソン地域が9.3%、フィリピン第2の都市であり、やはり多くの輸出型製造業や大規模な小売店の進出も多いセブ都市圏を含む中部ビサヤ地方が6.6%となっている。

ミンダナオ最大の都市ダバオを含む地域のGDP構成比は4.7%だが、その他のミンダナオ各地域は経済開発の遅れが目立つ。イスラム教徒が多く住むミンダナオ南西部の州を中心とするムスリム・ミンダナオ自治区（ARMM）のGDP構成比は0.7%、同じくミンダナオの北東部にあるカラガ（CARAGA）地方は同1.1%であり、フィリピンの約24%の人口が居住しているミンダナオであるが、GDP構成比は全体の15%程度にとどまる。

図表 24-3 地域毎のGDP及び成長率

地域	2018 名目GDP		2017-2018 実質GDP 成長率（%）
	金額（億ペソ）	構成比（%）	
フィリピン全国	174,262	100.0	10.2
NCR マニラ首都圏	65,348	37.5	8.6
CAR コルディエラ地方	3,043	1.7	11.6
I イロコス地方	5,475	3.1	12.3
II カガヤン・バレー地方	3,030	1.7	8.0
III 中部ルソン地方	16,203	9.3	11.1
IVA カラバルソン地方	25,713	14.8	11.0
IVB ミナロバ地方	2,743	1.6	16.0
V ビコール地方	3,743	2.1	12.9
VI 西部ビサヤ地方	7,390	4.2	12.1
VII 中部ビサヤ地方	11,566	6.6	11.9
VIII 東部ビサヤ地方	3,546	2.0	10.5
IX サンボアング半島	3,423	2.0	9.4
X 北部ミンダナオ地方	6,917	4.0	10.6
XI ダバオ地方	8,169	4.7	12.3
XII ソクサージェン地方	4,727	2.7	10.8
XIII カラガ地方	1,940	1.1	7.5
ARMM ムスリム・ミンダナオ自治区	1,287	0.7	7.9

（出所）PSA（Philippine Statistics Authority）データより作成

### 3. 地域別の人口と所得水準

2018 年における地域別の人口データによると、最も人口が多いのは工業団地集積地でもあるカラバルソン地方で、フィリピン全体の 14.0%の人口が同地域に居住している。次いで多いのがマニラ首都圏で人口の 12.2%が集中し、3 番目に中部ルソン地域の 10.9%、4 番目に西ビサヤ地域の 7.5%、5 番目に中部ビサヤ地域の 7.3%と続いている。

一人あたりの名目 GDP を見ると、地域格差が非常に大きく、最大のマニラ首都圏（50 万 947 ペソ）と最小のムスリム・ミンダナオ自治区（3 万 2,220 ペソ）では、15 倍以上もの開きがある。

図表 24-4 地域毎の人口及び一人あたり GDP

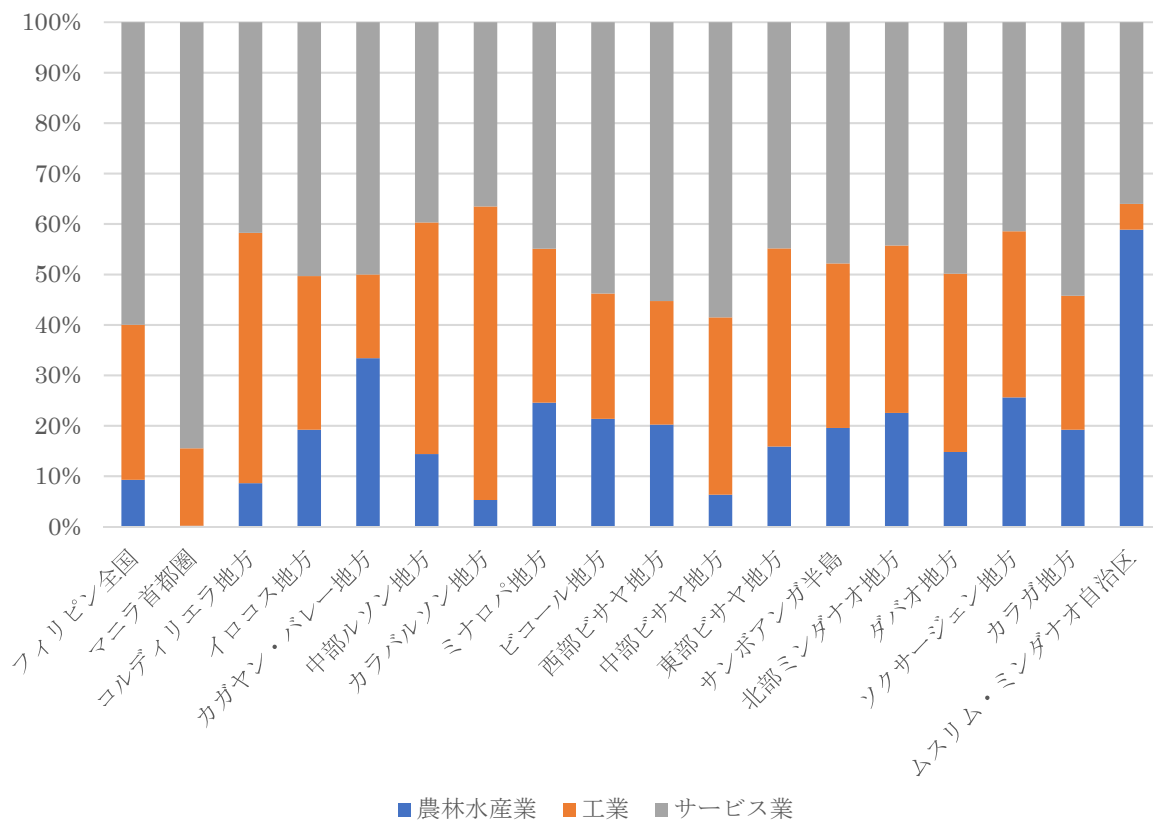
地方	地域	2018 人口		2018 一人あたり名目 GDP (ペソ)
		人数 (千人)	構成比 (%)	
フィリピン全国	フィリピン全国	106,599	100.0	163,475
ルソン地方	NCR マニラ首都圏	13,045	12.2	500,947
	CAR コルディリエラ地方	1,880	1.8	161,888
	I イロコス地方	5,325	5.0	102,819
	II カガヤン・バレー地方	3,644	3.4	83,158
	III 中部ルソン地方	11,588	10.9	139,833
	IVA カラバルソン地方	14,922	14.0	172,310
	IVB ミナロパ地方	3,281	3.1	83,614
ビサヤ地方	V ビコール地方	6,388	6.0	58,600
	VI 西部ビサヤ地方	8,029	7.5	92,043
	VII 中部ビサヤ地方	7,811	7.3	148,067
ミンダナオ地方	VIII 東部ビサヤ地方	4,792	4.5	73,996
	IX サンボアング半島	3,963	3.7	86,368
	X 北部ミンダナオ地方	4,933	4.6	140,224
	XI ダバオ地方	5,248	4.9	155,657
	XII ソクサージェン地方	4,871	4.6	97,034
	XIII カラガ地方	2,886	2.7	67,228
	ARMM ムスリム・ミンダナオ自治区	3,995	3.7	32,220

(出所) PSA (Philippine Statistics Authority) データより作成 (人口数値は予測値)

### 4. 各地方の産業別 GDP 構成

フィリピン全体の産業別 GDP 構成は、サービス業が 60%、工業が 31%、農林水産業が 9%であり、サービス業が最大の産業となっている。地域別に見ても、17 地域中 13 地域においてサービス産業が最大で、工業が最大のセクターとなっているのはカラバルソン、コルディリエラ、中部ルソンの 3 地方、農業が最大となっているのはムスリム・ミンダナオ自治区のみである。マニラ首都圏におけるサービス業は、同地域 GDP の 84%を占めており、首都圏の経済はサービス業に極度に依存していることが伺える。全地域の中で工業の割合が最も高いのは大規模な工業団地が集積しているカラバルソンで、地域 GDP の 58%が工業生産となっている。フィリピンで最も貧しい地域であるムスリム・ミンダナオ自治区は、GDP に占める農業の割合が 59%とフィリピン最大であるが、農業生産高は国内総額の 4.7%程度と小規模である。

図表 24-5 各地方の産業別 GDP 構成比比較



(出所) PSA (Philippine Statistics Authority) データより作成

工業生産高はカラバルソン地方が国内最大で 1 兆 4,960 億ペソとなっており、次いでマニラ首都圏の 1 兆 30 億ペソ、中部ルソンの 7,436 億ペソ、中部ビサヤの 4,070 億ペソが続いている。

農林水産業の生産高は、中部ルソン地域が最大で 2,334 億ペソ、続いて北部ミンダナオの 1,560 億ペソ、西ビサヤの 1,494 億ペソ、カラバルソンの 1,363 億ペソと続いている。

サービス業の生産高は全国の約 53% を占める 5 兆 5,202 億ペソがマニラ首都圏に集中しており、2 番目のカラバルソン地域は全国の 9% 程度となる 9,393 億ペソである。

図表 24-6 地方別、産業別 GDP 構成

地方	地域	2018年各地域のGDPと産業別内訳（10億ペソ）				2018年各地域のGDPの全国シェアと産業別構成（%）			
		GDP（名目）	農林水産業	工業	サービス業	GDP全国シェア（%）	農林水産業	工業	サービス業
フィリピン全国		17,426	1,618	5,358	10,450	100.0%	9.3%	30.7%	60.0%
ルソン地方	マニラ首都圏	6,535	11	1,003	5,520	37.5%	0.2%	15.4%	84.5%
	CAR-コルディリエラ	304	26	151	127	1.7%	8.6%	49.6%	41.8%
	I-イロコス	548	105	167	276	3.1%	19.2%	30.5%	50.3%
	II-カガヤン・バレー	303	101	50	152	1.7%	33.4%	16.6%	50.0%
	III-中部ルソン	1,620	233	744	643	9.3%	14.4%	45.9%	39.7%
	IV-A カラバルソン	2,571	136	1,496	939	14.8%	5.3%	58.2%	36.5%
	IV-B ミマロバ	274	67	84	123	1.6%	24.6%	30.5%	44.9%
	V-ビコール	374	80	93	201	2.1%	21.4%	24.8%	53.8%
ビサヤ地方	VI-西ビサヤ	739	149	181	408	4.2%	20.2%	24.5%	55.3%
	VII-中部ビサヤ	1,157	73	407	677	6.6%	6.3%	35.2%	58.5%
	VIII-東ビサヤ	355	56	139	159	2.0%	15.9%	39.3%	44.8%
ミンダナオ地方	IX-サンボアング半島	342	67	112	164	2.0%	19.6%	32.6%	47.8%
	X-北部ミンダナオ	692	156	229	306	4.0%	22.6%	33.2%	44.3%
	XI-ダバオ	817	121	289	407	4.7%	14.8%	35.3%	49.9%
	XII-ソクサージェン	473	121	156	196	2.7%	25.6%	32.9%	41.4%
	XIII-カラガ	194	37	52	105	1.1%	19.2%	26.6%	54.2%
	ARMM-ムスリム・ミンダナオ自治区	129	76	7	46	0.7%	58.9%	5.1%	36.0%

（注） 各地方最大の産業セクターに緑色の網掛けをしてある。

（出所） PSA（Philippine Statistics Authority）のデータより作成

## 5. 近年の地域別投資動向

PEZA に登録している日系企業（日本企業の資本が入っている企業）は 2018 年において 940 社に上っている。業種別に見ると、輸出関連企業が 563 社と最も多く、IT 関連企業が 173 社、物流サービス関連企業が 136 社となっている。ロケーション別に見ると、ラグナ・テクノパーク経済特区が 136 社と最も多く、次いでカビテ経済特区の 119 社となっている。

## 6. 主要な工業団地の所在する地方の賃金水準

フィリピンに進出している日本企業の多くが、マニラ首都圏の商業地区、マニラ首都圏近郊のカラバルソン地域や中部ルソン地域の工業団地、マニラ首都圏に次ぐ大都市圏であるセブ州の工業団地などに立地している。これらの地域の賃金水準の目安として、2020 年 8 月時点での非農業部門の日額最低賃金を次の図表に示す。

ただし、地域毎にカテゴリーの分類体系や最低賃金体系が大きく異なる点に留意が必要である。なお、国家賃金生産性委員会（NWPC）のホームページ（<http://www.nwpc.dole.gov.ph/>）から対象地域の対象業種、業態毎に具体的な最低賃金を調べることが可能である。

図表 24-7 日系企業が多い主要地域の非農業部門最低賃金

主要地域	最低賃金 (ペソ/日)	地域概要
NCR マニラ首都圏	500~537	フィリピン経済の中心地で、600社近い日系企業が進出。金融機関、商社、通信サービス、ソフトウェア開発その他ITサービス、BPOサービス、設計(CAD/CAM)業務、飲食店その他小売業、不動産、ホテル等。工業団地は少ないが、PEZA認定ITビルやITパークが多い。
III 中部ルソン	369~420	マニラ首都圏の北側に位置し、スービックやクラークなどの工業団地は中部ルソン地域に含まれる。北ルソン高速道路(NLEX)の整備により、マニラ首都圏からの移動時間はクラークが2時間程度、スービックが3時間程度とアクセスが便利になった(ただし、首都圏内の混み具合によってかなり左右される)。
IV-A カラバルソン	317~400	マニラ首都圏の南側に位置し、Cavite Economic Zone (CEZ)、First Cavite Industrial Estate、Gateway Business Park、First Philippines Industrial Park (FPIP)、Lima Technology Center、Laguna Technopark、Carmelray Industrial Park (CIP) 12、Light Industry & Science Park (LISP) 12、Laguna International Industrial Parkなど、日系企業の入居が多い工業団地が最も集中している地域。
VII 中部ビサヤ	356~404	マニラ首都圏に次いでフィリピン第2の経済圏であるセブ都市圏には、Mactan Economic Zone (MEZ)のほか、Asiatown IT Park、Cebu Business Park等に多くの日本企業が進出している。セブにも日本人商工会議所があり、100社程度の会員がいる。
XI ダバオ	396	ミンダナオ南部、ダバオ地域の中心都市ダバオ市はミンダナオ地方最大の都市で、20世紀初頭日本人がマニラ麻栽培農園経営のために移住したことから、現在でも多くの日系人が住んでいる。ダバオ港は木材の積出港で、また近郊では大規模なバナナプランテーションが行われており、バナナの加工品の輸出でも知られる。近年は、コールセンター等のBPO企業の進出も始まっている。ダバオは台風被害が少なく、雨季/乾季の区別もなく、1年を通して変化の少ない予測し易い天候であることは、農業にとって利点である。

(注) 2020年8月時点

(出所) NWPC、その他各種資料より作成